



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会 発行日 2020年7月5日

No. 74

しかし、神の賜物は、
わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。
ローマの信徒への手紙 6章23節b



礼拝献花より

御言葉に生きる

御言葉はあなたのごく近くにあり、あなたの口と心にあるのだから、それを行うことができる。
申命記30章14節

ルーター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『キリストを映して』

牧師 佐藤和宏

マタイ10章40節〜42節

灰谷健次郎さんの本に、一人の小
学1年生の「こえ」という詩が紹介
されています。

「おかあちゃんがきをつけてねと
いった／ぼくははいってきますと
いった／おかあちゃんのこえがつい
てきた／がつこうまでついてきた」

おそらく小学生になったばかりで、
その人生において初めて一人で学校
に行かなければならない日の経験な
のでしょう。それは、小学1年生に
とってあまりにも大きな挑戦と言え
るでしょう。冒険と言った方が近い
のかもしれない。ドキドキと緊張
している様子がうかがえます。そし
てその母親は、不安な気持ちに包ま
れたその子に「気をつけてね」と声
をかけたのでした。その声に押し出
されるように、その冒険は始まった
のです。ところが、「気をつけてね」
という母親の声がついてきた。学校
までついてきたというのです。もち

ろん母親が心配のあまり、ついてき
たわけではなく、男の子が不安の中、
学校への道をこの母親の声がまるで
自分についてくるかのように感じ、
それに励まされながら歩き通したと
いうことなのです。

派遣されていく弟子たちもまた、
大きな挑戦を前に、不安であったこ
とでしょう。しかし、主イエスは彼
らを派遣するにあたって言われてい
るのです。「あなたがたを受け入れる
人は、わたしを受け入れ、わたしを
受け入れる人は、わたしを遣わされ
た方を受け入れるのである。」派遣さ
れたあなたがたは一人ではなく、私
と私を遣わされた方があなたと共に
いるのである。だから、あなたを受
け入れる人は、わたしを、そして神
を受け入れることになる。励まして
いるのです。主イエスの言葉は、母
親の言葉が小さな男の子の大きな挑
戦を成し遂げさせたように、弟子た
ちを派遣し、宣教する力なのです。
同じように私たち教会の交わりも、
弟子たちと共にこの「あなたがた」
にちがひありません。私たち自身は、
小さく弱く、足りなさに嘆く者でし
かありません。しかし、この私と共に、

私を派遣する神と主イエスとがいて
くださるので。この事実が、私た
ち教会の宣教の力なのです。そして
弟子たちが、そして今を生きる私た
ちが派遣されるその根拠は、すべて
人々に向けられた主の深い憐れみに
あるのです。主の深い憐れみは、私
たちを通してすべての人々に向けら
れています。そしてその憐れみは同
時に派遣する弟子たちに、そして私
たちにも注がれる憐れみにほかなら
ないのです。そしてその憐れみこそ
が、私たちを励ましますのです。

私たち教会の一人ひとり、それぞ
れに主に遣わされた存在であり、主
が共におられるということ。仲
の良い信仰の友はもちろん、あまり
話したことがないという方、少々苦
手と思われる方、あるいは教会から
遠ざかっている方を含め、私たちは
それぞれに神と主イエスとが共にお
られることを知らなければならな
いのです。実際に顔をあわせるのは私
たちなのですが、出会う相手それぞ
れに主が共におられるという事実が、
聖書を通して告げられているのです。
あらゆる存在が、主の深い憐れみを
根拠とし、主の憐れみをすべての人々

に現わすためにあるということなの
です。ですから、誰に対するときにも
その方にキリストを映して、キリス
トに対するように接していくことが
求められるでしょう。これこそ主イ
エスが私たちに与えられた新しい掟
「互いに愛し合いなさい」ということ
なのです。こうして、私たち教会の
交わりは、キリストを中心としたキ
リストの弟子の群れとされ、人々に
キリストを現わすために用いられる
のです。

今日、私たちは礼拝の場から社会
へと、日常生活へと派遣されようと
しています。礼拝のたびに派遣の祝
福で、「主があなたを祝福し、あなた
を守られます。主がみ顔をもつてあ
なたを照らし、あなたに恵みを与え
られます。主がみ顔をあなたに向け、
あなたに平安を賜ります」と、告げ
られているように、その祝福の言葉
は、日々の生活の中で、私たちにつ
いてきて寄り添い、私たちを励まし
力なのです。私たちは主の守り、主
の恵み、主の平安を携えて、そのま
まの小さく、弱い私が主の憐れみを
人々にあらわすために生かされるの
です。
(聖霊降臨後第4主日)

「泳ぐことが大好きでたまらない」という人々が世界中から集まる場所がある。西オーストラリアの州都パース。ここで毎年2月、海峡横断レースが開催される。パース郊外にあるコテスロー海岸をスタートして、沖合にあるロットネスト島を目指す。その距離20 km。一人で横断するソロ、二人でリレーをして泳ぐデュオ、四人でリレーをするチームという3つの種目がある。当時、ソロで完泳した日本人は10人であった。

私の泳ぎはすべて自己流である。夏には、祖母が住んでいた伊東で、朝からよく泳いだ。小学生の時に、初島へアジ釣りに行った時、途中で船からポンと落とされ、「帰っておいでって。イヤになったら上げてやるから」。長い距離を泳いだのはそれから初めてであった。ちゃんと習ったのは30代。子供が幼稚園に入ってから、男の時は見ていただけだったが、次男のときはたまらなく泳ぎたくなり、子どもの隣で泳いだ。水泳の先生に本当に形を習ったのは、その時からだ。その後、コーチの試験を受け、9年ほどコーチをしたり、競技役員や体育指導員などの試験も受けたり、

パンパシフィックの役員もした。

そのうちにプールで泳ぐのが面白くなくなり、昔育った伊東の海のほうが景色もある、空気もいい、もぐれば魚が見えると、プールから海に転向した。1999年夏、新島の帰り、日本人で初めてドーバー海峡を泳いで渡った大貫映子さんに会った。「オーストラリアで1マイル(1.6 km)の大会があるから一緒に行きましょう」。その後、

大貫さんの「海人くらぶ」と「ハニーポッサム水の会」に入り、下田、鎌倉、三浦、奄美大島、ロットネストの各大会で、一気に泳ぎ続けることになる。

1999年から奄美大島海峡横断15キロを毎年、7回泳ぎ、ロットネスト20キロは、2001年から5回デュオで連続出場し、2001年、2002年には、100歳以上、男女混合の部門で連続優勝を果たした。そして2005年2月、ロットネ



スト海峡横断20キロのソロを迎えることになる。当日、3時起床。マネージャーの池畑さん、唐木さん、尾辻コーチは伴走船に乗り込むため、フリーマントルまでバスで向かう。スキッパーと合流してコステロー沖へ向かい、ソロのスタートを待つ。沖合の船の上は、私の経験では、暗く、寒く、波があれば酔いもくるし、

眠くもあるし、良いものではない。前日、用意した私のための水6リットル、栄養ドリンク、エバームルク(こ

れが一番だった)、ホットのお湯、目印の大漁旗、レース後の着替え、薬、洗面具、他にスタップの水、食料などダンボール箱に詰めて2つを運び、さらに背にはリュック。4時45分、大貫さんと浜辺に行きエントリー。日本チームの集合場所にニコチャンマークの旗を立て、ブライアン夫妻、大貫さんのお友達家

族が応援に駆けつけてくれた。ところが肝心のパドラーさんが見つからない。私は体にワセリンを厚目に塗り、受付で腕に21とナンバーを書いてもらう。白のシリコンキャップとゴーグルをしっかりと持ち、もう一度ベンチコートを着てパドラーさんを待つ。パドラーさんの腕に目印のフリル袖をつけてもらうことにな

っており、これを渡そうと待っていた。5時45分、ソロがスタート。パドラーさんが汗をかきながら飛んできて、ヤアヤア、ウォーウォー、サンキュウ?? なんだか分からない。「スタート5分前です。行きましょう」「えーゴーグルがない」敷物の下やバックの中を探す。それどけて、あれどけて。荷物散乱。オレンジ色のコートの袖を脱ぐと、何としっかり腕にゴーグルがあるではないか。「ブアー」とスタートの合図がゲートはるか手前で鳴る。走る、走る。これではトラリアスロンだ。

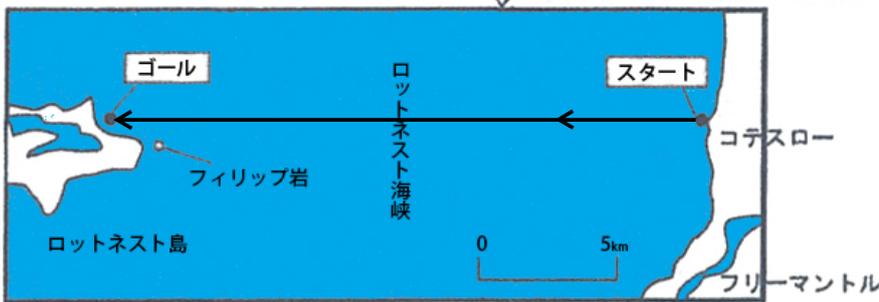
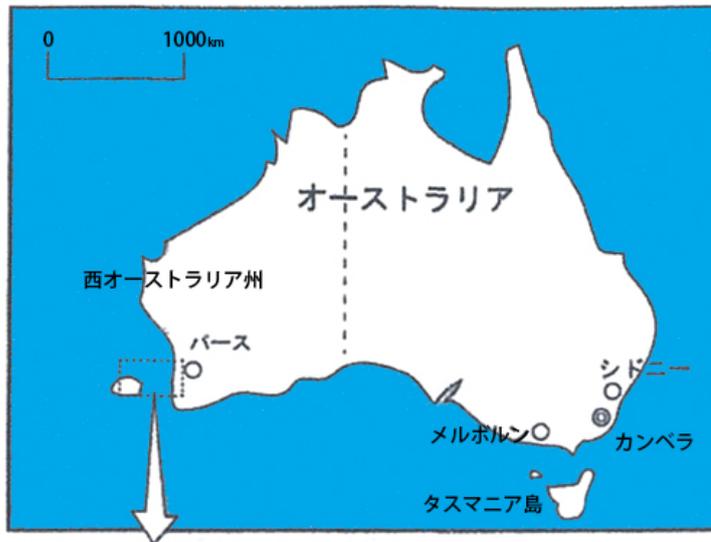
かねがねコーチから「一番後ろから行くように」と言われていたことを思い出していた。水際まで来て後ろを振り返り、手を振った。「やった、やっと泳げる、嬉しい、必ず泳

ぎ切りますよ」陸の人たちに声を張り上げるが、聞こえたかな。ソロは第1スタート、第2スタートと15分間隔で出る。第2スタートの最終泳

者になってしまった。ゆっくり行こう。まだ海は暗く、遮光ウィンドウガラスの中を覗いているようだ。
(次月号に続く)

《参考資料》

ロットネスト海峡
横断関係地図



●礼拝が再開されました。

6月14日より、礼拝が再開されました。藤が丘教会では、再開の第一段階として、全体を3つのグループに分け、毎週、各グループが順に集まることで、礼拝出席数を20〜25人に限定し、座席の間隔を確保しています。第一段階は少なくとも、全体が2巡する7月19日まで継続される予定です。その後については、7月5日の定例役員会で決定される見込みです。

礼拝が再開され、「密」を注意し

ながらも、再開(再会)の喜び、そして礼拝に集まる喜びが溢れる様子がみられました。礼拝を休止しなければならぬという大きな決断をし、困難の時を過ごして来た私たちですが、困難の経験を通して真の喜びを知らされたように思います。

社会は「ポスト・コロナ」と、新しいあり方を模索し始めています。教会も同じように「新しさ」を求めたいものです。それは私たちの知恵からではなく、神から与えられる「新しさ」です。教会のために引き続き、お祈りください。(佐藤)

今月の受洗記念日の皆さん

- 6日 ○田由○子姉
- 23日 ○野○子姉
- 25日 ○井○子姉、○尾○子姉
- 30日 ○坂○美姉

おめでとうございます。



「御言葉はあなたのごく近くにあり、あなたの口と心にあるのだから、それを行うことができる。」申命記30章14節
藤が丘教会ウェブサイト <https://www.jclc-fujigaoka.org/>
フェイスブックで礼拝のライブ中継をしています。(毎日曜日午前10時半)